

# 『 第1回三重緩和医療研究会 』

日時 平成21年12月5日(土)13時50分～16時40分(13時20分受付)

場所 三重県総合文化センター 多目的ホール  
プログラム

13:50～14:00 学術情報

「オキシコンチン錠とオキノーム散を組み合わせたWHO方式がん性疼痛治療法」 塩野義製薬株式会社 学術担当

14:00～15:30 一般演題

司会 遠藤 彰(寺田病院 外科) 大野 礼子(藤田保健衛生大学七栗サナトリウム 看護部)

演題1:「終末期がん患者の在宅移行までの気持ちを支えるプロセス」

彦坂知里(藤田保健衛生大学七栗サナトリウム 看護部)

演題2:「緩和治療に行ったCTガイド下仙腸関節ブロックの経験」

増田 亨(桑名市民病院 外科)

演題3:「自立存在を支えた緩和ケアチームの関わり」

-患者の意思を尊重し、共同して実施したオピオイドローテーション-

山下めぐみ(三重中央医療センター 緩和ケアチーム)

演題4:「緩和ケアの認識～患者さんへのアンケート結果から～」

長島千恵子(寺田病院 看護部)

演題5:「当院での緩和ケアチーム立ち上げの経験」

山田結香(桑名市民病院 緩和ケアチーム 看護部)

司会 坂倉 究(さくらペインクリニック在宅診療所 院長) 井戸本 睦美(山田赤十字病院 看護部)

演題6:「緩和ケア医療における薬剤師の役割」

前川ゆか(JA三重厚生連鈴鹿中央総合病院 緩和ケアチーム、同薬剤部)

演題7:「当院における緩和ケア外来の取り組み」

廣津美恵(県立志摩病院 看護部)

演題8:「山田赤十字病院の緩和ケア外来の現状」

辻村恭江(山田赤十字病院 緩和ケア科)

演題9:「看取りに向かう家族を「ハンドブック」で支援する」

大西紀恵(いせ在宅医療クリニック 訪問看護部「えにし」)

演題10:「三重県がんに係る医療・福祉資源調査」

芝田登美子(三重県健康福祉健康づくり室)

15:30～15:40 休憩

15:40～16:40 特別講演

司会 東口 高志(藤田保健衛生大学外科・緩和医療学講座 教授)

## 「悲嘆の日々を乗り越えて」

聖トマス大学名誉教授 生と死を考える会・全国協議会 会長

高木 慶子 先生

共催 三重緩和医療研究会 三重中勢緩和ケア研究会 塩野義製薬株式会社 ムンディファーマ株式会社

後援 三重県医師会 三重県看護協会 財団法人三重県健康管理事業センター 三重県薬剤師会

三重県病院薬剤師会 三重県臨床栄養研究会 三重県医療ソーシャルワーカー協会 三重県

## 演題 1

「終末期がん患者の在宅移行までの気持ちを支えるプロセス」

藤田保健衛生大学七栗サナトリウム看護部 彦坂知里 和田尚子 大野礼子 野村祐子 武重榮子

藤田保健衛生大学外科・緩和医療学講座 東口高志 伊藤彰博 定本哲郎 村井美代 児玉佳之 天野晃滋

【はじめに】終末期がん患者の全人的苦痛を早期より把握し、チーム医療を提供することで在宅療養に移行することができた症例を経験したので報告する。

【事例紹介】A氏 70歳代 男性。直腸癌術後、下部胆管癌術後、肝転移、肺転移。告知あり。家族構成：妻（キーパーソン）と息子3人。気管切開、経鼻胃管留置、褥瘡あり。

【入院中の経過】入院時にA氏の全人的苦痛を把握し、問題点とその解決策についてカンファレンスを行った。問題点1:24時間栄養投与によるADLの障害→NST介入、PEG造設し半固形化栄養開始、2:嚥下障害→摂食嚥下チーム介入、嚥下内視鏡・嚥下リハビリ・呼吸リハビリ施行、3:発声不可→スピーチカニューレへ変更、4:褥瘡部痛→NSTおよび褥瘡チーム介入、5:在宅療養希望→ケースワーカー介入。

【まとめ】多職種が早期から関わり、A氏と妻の気持ちを十分に把握し、不安や問題点を一つずつ解決しながら、チーム医療を提供することで、入院当初は不可能と思われた在宅療養へと移行することが可能となった。

## 演題 2

「緩和治療に行った CT ガイド下仙腸関節ブロックの経験」

桑名市民病院 外科 増田亨、濱口哲也、岩永孝雄、藤岡正樹

看護部 山下由佳、古川真弓、山田結香、太田美砂

薬剤部 野村昌宏

腰臀部から下肢にかけての痛みの原因として腰仙椎や股関節に注意が向けられる事が多い。しかし、その中には仙腸関節に由来する痛みや他の疾患に伴う仙腸関節痛も少なくない。我々は、大腸がん骨転移、直腸癌骨盤腔再発、直腸癌会陰部再発の3例の臀部から下肢にかけての疼痛例に仙腸関節ブロックを行い、有効であったので報告する。全例腹臥位でCTガイド下で21G PTC 針を用いて行った。2例は片側、1例は両側に行った。1%キシロカイン入りウログラフィンでテスト注入後に、2%カルボカインとリンデロンの混合液を注入し、終了した。全例除痛が得られ、効果期間は2週間-2ヶ月であった。